

# 2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

2026年 2月 9日

株式会社クレハ

# 業績のポイント（1）

株式会社クレハ

## 2026年3月期 第3四半期実績

### 売上収益・利益推移

（単位：億円）

	26/3 3Q	25/3 3Q	差異	26/3 2Q時 通期予想
機能製品	455	433	22	615
化学製品	205	224	-18	305
樹脂製品	284	330	-46	380
建設関連	102	99	2	160
その他関連	131	134	-2	190
<b>セグメント別売上収益</b>	<b>1,178</b>	<b>1,220</b>	<b>-42</b>	<b>1,650</b>
機能製品	38	13	25	23
化学製品	5	5	-0	11
樹脂製品	59	65	-6	72
建設関連	9	8	0	9
その他関連	19	20	-1	20
<b>セグメント別営業利益</b>	<b>128</b>	<b>110</b>	<b>18</b>	<b>135</b>
全社調整	5	-6	11	5
<b>営業利益</b>	<b>133</b>	<b>105</b>	<b>29</b>	<b>140</b>
<b>当期利益※</b>	<b>102</b>	<b>81</b>	<b>21</b>	<b>100</b>
※ 親会社の所有者に帰属する四半期利益				
EBITDA	226	200		260

### 前年同期比の主な差異要因

- ・機能製品のPGA、PPSが増収となったものの、PVDFでの販売構成の変化による販売単価の下落および樹脂製品のML事業を昨年上期に撤退したことなどから、あわせて減収。
- ・持分法利益を含むPPS損益の改善などによる機能製品の増益、および販売費および一般管理費の減少、全社調整で非事業用資産の売却益があったことなどから、営業利益増益。

### 通期業績の見通し

- ・3Qまでの業績は順調に推移しているものの、事業環境や為替など不確定要因があるため、通期の業績予想修正は行わない。
- ・いわき事業所での発電設備トラブルによりPPSおよび工業薬品の損益が悪化するものの、持分法利益の増加により、2Q開示利益並みを見込む。

### 為替レート

為替レート	上期 実績	10～12月 実績	1～3月 見込
(円/ドル)	146.0	156.6	153.0
(円/ユーロ)	168.1	184.3	181.0
(円/元)	20.3	22.4	21.4

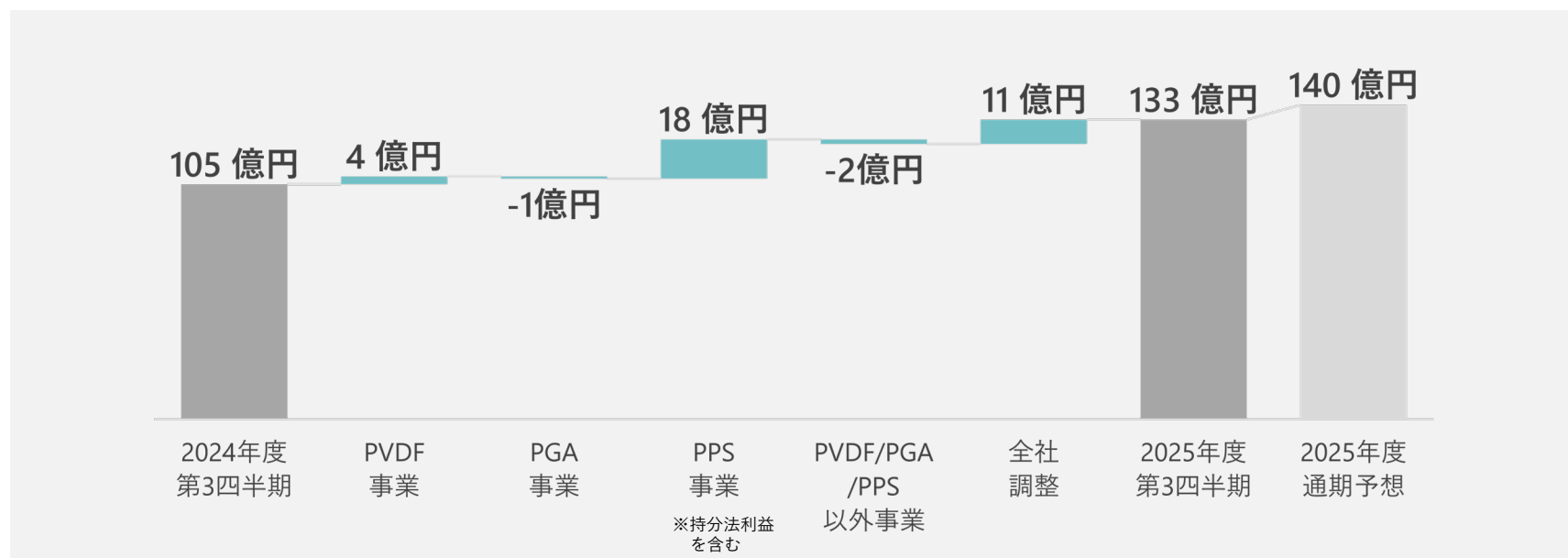
### 為替感応度（営業利益・半期）

1ドル 1円の円安で、0.5億円プラス  
 1ユーロ1円の円安で、0.4億円プラス  
 1元 1円の円安で、0.5億円プラス

## < 営業利益 増減要因分析：2026年3月期 第3四半期業績 >

PVDFは減収となったものの、前期の在庫評価損の戻り益があり、増益。  
PGAは増収となったものの、樹脂生産トラブルに伴う損益悪化の影響などがあり、減益。  
PPSは販売価格改善、原燃料価格低下、持分法利益増加などから増益。  
全社調整は、非事業用資産の売却益があったことなどから増益。

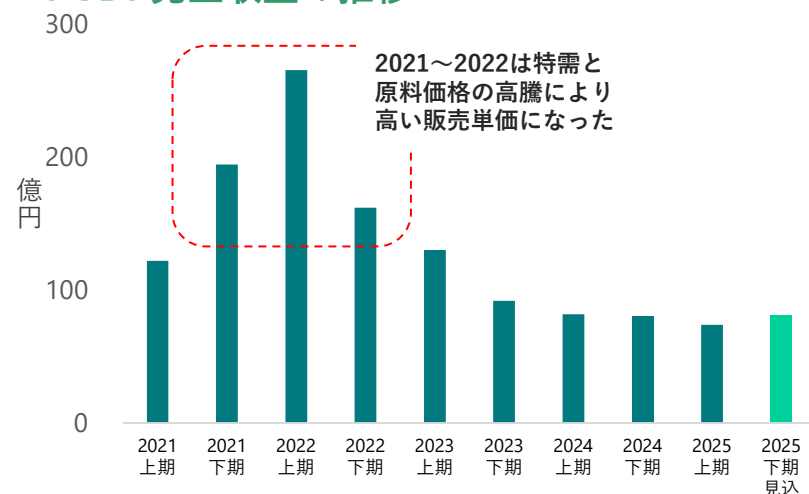
### 前年同期比



## <市場概況>

- ・ 車載用途のLiB需要は、中長期では持続的に拡大する見通しに変更なし。足元では欧州EV市場に回復の兆しがみられるものの、北米では停滞が継続している。
- ・ ESS用途のLiB需要は、特にデータセンター向けの増加により市場拡大が続く状況に変化なし。欧米EV市場の停滞を受け、LiBメーカーの生産はESS向けへのシフトが進んでいる。

## <PVDF売上収益の推移>



## <損益の状況>

### 前年同期比(1Q～3Q)・前期比(通期)

- ・ 1Q～3Qは、1QからESS向け販売の開始があったものの、EV向け販売の減少により、減収。前期の在庫評価損の戻し益があり、増益。
- ・ 通期でも、ESS向け販売の寄与が見込まれるものの、4Qでは北米でのさらなるEV向け販売の減少により減収を見込む。一方、前期にあった在庫評価損がなくなることで、増益を見込む。

### 前回(2Q時)通期予想比

- ・ 11月開示の利益予想からの変更はなし。

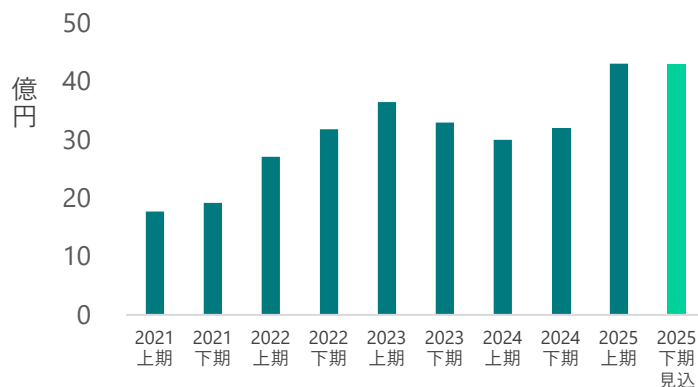
## <施策進捗>

- ・ いわき事業所の能力増強は2026年春に完工予定。2026年度4Q～2027年度1Qにかけて商業運転開始の計画に変更なし。
- ・ 5月に開示した2025年度の各施策は、三元系EV新規プロジェクト、LFP向け新グレード開発に一部遅れがみられるものの、三元系新グレード開発、工業用途の新規採用に向けた準備は順調に進捗。特定の地域・顧客・電池種類に偏らない事業構造を目指し、各施策を推し進めていく。

## < 市場概況 >

- ・北米天然ガス価格の上昇、および輸出能力の増加により、ガス鉋区（高温鉋区）は掘削活動が回復。
- ・オイル価格は足元で低下しており、オイル鉋区（低温鉋区）のリグ数は減少傾向にある。

## < PGA売上収益の推移 >



## < 損益の状況 >

### 前年同期比(1Q~3Q)・前期比(通期)

- ・ガス鉋区（高温）での掘削活動の回復、およびオイル中心の鉋区（中高温）での営業活動による市場シェアアップがあり、販売が増加。上期は、半期ベースで過去最高の販売本数を記録し増収。米国の樹脂工場での生産トラブルに起因する在庫不足による受注制限を実施しているため、下期の販売は上期並みに抑える。通期では増収となる見込み。
- ・下期も樹脂生産を行ったことによる費用の増加があったものの、売上収益の増加に加え、昨年度に実施した製品除却が本期はないことから、増益。

### 前回（2Q時）通期予想比

- ・下期も樹脂生産を実施したが、生産トラブルにより今年度の生産を終了した。下期の生産未達による損益への影響は限定的。来期への影響については現在精査中で、5月に開示予定。
- ・米国相互関税による大きな損益への影響が生じないよう、価格政策等を進めている。

## < 施策進捗 >

- ・低温向けグレードは、上期に販売を進め、またデザイン改良版も下期から市場再投入を目指す。
- ・超低温向けグレードは、1月よりフィールドテストを開始した。

# 【機能製品・化学製品】 セグメント別連結業績

株式会社クレハ

## 機能製品セグメント

	2026年 3月期 3Q実績	2025年 3月期 3Q実績	増減 額	率
PVDF	109	122	-14	-11%
PGA	68	47	21	45%
その他	115	112	3	3%
機能樹脂	<b>292</b>	281	11	4%
炭素製品	<b>60</b>	59	1	2%
その他	<b>103</b>	93	10	11%
売上収益	<b>455</b>	433	22	5%
営業利益	<b>38</b>	13	25	199%

### <前年同期比> 増収・増益

#### 機能樹脂

PVDFは減収も、PGAおよびPPSは増収となり、あわせて増収。売上収益の増加に加え、原材料価格の下落により、増益。

## 化学製品セグメント

(単位：億円)

	2026年 3月期 3Q実績	2025年 3月期 3Q実績	増減 額	率
農薬	<b>43</b>	47	-4	-8%
医薬品	<b>21</b>	22	-1	-4%
工業薬品	<b>70</b>	74	-4	-6%
その他	<b>71</b>	81	-10	-12%
売上収益	<b>205</b>	224	-18	-8%
営業利益	<b>5</b>	5	-0	-4%

### <前年同期比> 減収・減益

#### 農薬・医薬

農薬での前期との販売タイミングの差異による販売の減少、および開発費の増加があり、減収・減益。

#### 化学製品その他

グループ会社である商社の苛性ソーダ、農薬原料の販売が減少し、減収も、営業利益は前年同期並み。

KUREHA

# 【樹脂製品・建設関連・その他関連】 セグメント別 連結業績

株式会社クレハ

## 樹脂製品セグメント

	2026年 3月期 3Q実績	2025年 3月期 3Q実績	増減 額	率
家庭用品	184	179	5	3%
釣糸	40	40	0	1%
業務用包材	28	81	-52	-65%
その他	31	30	1	4%
売上収益	284	330	-46	-14%
営業利益	59	65	-6	-10%

## <前年同期比> 減収・減益

### 業務用包材

熱収縮多層フィルムの販売を前年上期で終了したことにより、減収・減益。

### 家庭用品・釣糸

家庭用ラップ「NEWクレラップ」および釣糸「シーガー」の販売が増加し、増収・増益。

## 建設関連セグメント

(単位：億円)

	2026年 3月期 3Q実績	2025年 3月期 3Q実績	増減 額	率
売上収益	102	99	2	2%
営業利益	9	8	0	5%

## その他関連セグメント

	2026年 3月期 3Q実績	2025年 3月期 3Q実績	増減 額	率
環境事業	85	86	-1	-1%
運送事業	11	12	-0	-4%
病院事業	33	34	-1	-3%
その他	2	3	-0	-5%
売上収益	131	134	-2	-2%
営業利益	19	20	-1	-6%

KUREHA

# 財政状態計算書

株式会社クレハ

## 資産

	2025年 12月末	2025年 3月末	増減
現金・現金同等物	257	215	42
営業・その他債権	309	313	-3
棚卸資産	449	467	-19
その他流動資産	44	53	-9
<b>流動資産 計</b>	<b>1,058</b>	<b>1,048</b>	<b>11</b>
有形固定資産	1,815	1,735	80
無形固定資産	50	53	-2
投資等	669	618	51
<b>非流動資産 計</b>	<b>2,534</b>	<b>2,405</b>	<b>129</b>
<b>資産 合計</b>	<b>3,592</b>	<b>3,453</b>	<b>139</b>

## 負債及び資本

(単位：億円)

	2025年 12月末	2025年 3月末	増減
営業・その他債務	231	195	36
有利子負債	1,225	860	365 ※1
引当金	65	84	-19
その他負債	231	203	28
<b>負債 計</b>	<b>1,753</b>	<b>1,342</b>	<b>411</b>
資本金	182	182	-
資本剰余金	147	147	-0 ※2
自己株式	-373	-158	-215 ※3
利益剰余金	1,649	1,744	-95 ※4
その他の資本	217	179	38
非支配株主持分	18	18	0
<b>資本 計</b>	<b>1,840</b>	<b>2,111</b>	<b>-272</b>
<b>負債・資本 合計</b>	<b>3,592</b>	<b>3,453</b>	<b>139</b>

※1 … 借入金+325 他

※2 … 自己株消却△175、利益剰余金振替+175 他

※3 … 自己株取得△391、自己株消却+175 他

※4 … 当期利益+102、配当△63、資本剰余金振替△175 他

**KUREHA**



(単位:億円)

	2026年 3月期 3Q	2025年 3月期 3Q	増減
税引前四半期利益	139	111	28
減価償却費および償却費	93	95	-3
その他	-23	51	-74
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>208</b>	<b>257</b>	<b>-49</b>
<b>投資キャッシュフロー</b>	<b>-86</b>	<b>-260</b>	<b>173</b>
フリーキャッシュフロー	122	-3	124
<b>財務キャッシュフロー</b>	<b>-92</b>	<b>14</b>	<b>-106</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	5	7
現金及び現金同等物の増減額	42	16	25
現金及び現金同等物の期首残高	215	231	-16
現金及び現金同等物の期末残高	257	248	9

※1

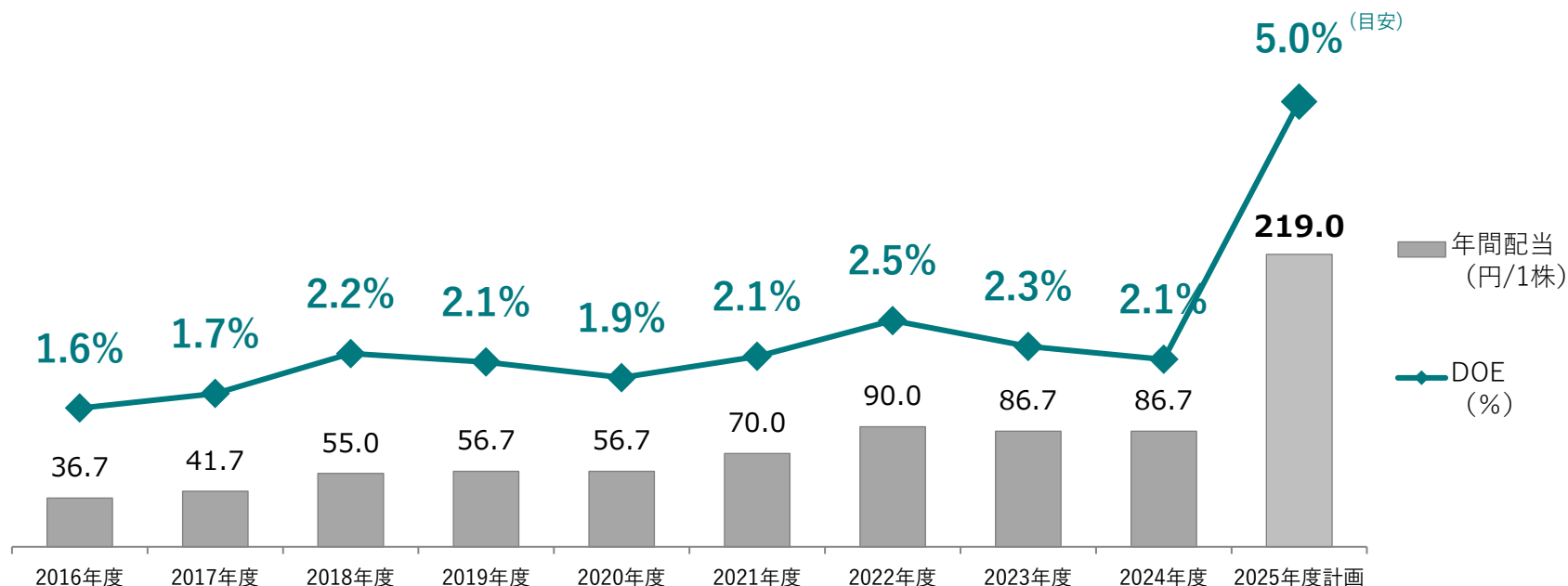
※2

※3

## 主な増減要因

※1 運転資本	△82
※2 有形固定資産等取得	+151
※3 借入金等 社債 自己株式取得	+376 △199 △264

## <1株あたり年間配当およびDOEの推移>



2016年10月1日付で普通株式を10株から1株に併合し、その後2024年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で分割しています。すべて2024年1月の分割後に換算して表示しております。

1株あたり配当予想金額は、現時点における予想株主資本を前提として算定しています。

- 本資料はあくまで当社をより深くご理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- 本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要因により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- 本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。